

Step 2 学校選択

名称だけで学校の種類は判断できません。たとえば college、institute、school といった名称が語学学校、高校、専門学校、短期大学、大学、大学院のいずれにもつけられていることがあります。

必ず学校や教育省や認定・登録団体などのウェブサイトや募集要項などで確認しましょう。

大学・大学院

大学名、学部名、学科名だけで判断せずに、学校のウェブサイト、募集要項、シラバス、教員の研究テーマを参考にして、自分が希望している分野を学べるか確認しましょう。資金が足りているか、合格できそうかを判断することも必要です。

語学学校

- ◆立地環境
- ◆学校の種類（私立／大学・カレッジ付属）
- ◆グループレッスンの人数
- ◆会話重視かアカデミックスkill重視か
- ◆語学以外の文化講座や校外学習の機会があるか
- ◆住居の紹介はあるか
- ◆コース費用
- ◆個人レッスンがあるか
- ◆語学試験の対策授業があるか
- ◆日本人比率はどのくらいか

などが選択ポイントです。現地で進学を考えている場合、希望する大学に付属する語学コースで規定の成績をおさめると、大学入学の際に必要な語学試験が免除されることがあります。

学校に問い合わせる

疑問点や不明点があれば、直接学校にメールなどで問い合わせしてみましょう。学校の対応も学校選択の参考になるかもしれません。

学校が公開している情報（ウェブサイト、パンフレット）に目を通し、そこに載っていないことだけを問い合わせるようにします。

ウェブサイトに問い合わせ用のフォーマットが用意されている場合は、それを利用します。問い合わせ先を正確に把握したうえで、問い合わせましょう。

学校の規模が大きくなるほど、出願、カリキュラム、入学許可、寮といった業務内容ごとの担当が分かれていることが多いようです。

海外における学校の認定・登録

学校の認定・登録制度は国・地域によって異なります。日本では、すべての大学を文部科学省が認可していますが、専門学校は国立・公立・私立により認可機関が異なります。

海外では、認定・登録が義務付けられていたり、制度はあるが認定・登録は任意であったり、制度自体がなかったりと、国・地域によって異なります。認定制度がある場合、その実施主体は中央政府、地方政府、民間団体などさまざまです。また、語学学校や大学など学校の種類ごとに、あるいは州や専攻ごとに認定機関が異なる場合もあります。

認定・登録校でないと、次のような不都合が生じる可能性がありますので事前に確認しましょう。

- ① 留学生の受入れが認められず、ビザや滞在許可が下りない
- ② 取得した学位や資格の評価が異なる

* 認定・登録校であってもコース内容によっては学生ビザや滞在許可が下りないこともあります。



学校選択のポイント

- | | |
|---------|------------|
| ● 国・地域 | ● 立地条件 |
| ● 種類 | ● 規模 |
| ● 設置コース | ● 学費 |
| ● 滞在費 | ● 出願資格 |
| ● 入学時期 | ● 滞在先 |
| ● 奨学金 | ● 認定・登録の有無 |



学校を決めるときは、このポイントを確認しながら考えるといいかも！

学位取得目的の留学

【大学学部】

海外の大学は、学士課程の年数が3年または4年の国・地域があります。3年の学士課程に入学する場合、一般的にはファウンデーションコースと呼ばれる進学準備コースを修了することが前提です。また、短期大学から4年制大学へ編入する方法もあります。

【大学院】

海外の大学院へ入学する場合、学士号を取得しているか、それと同等の資格を持っていることが必要です。大学院では、特定の分野において大学学部よりもさらに専門性の高い勉強をするため、より高度な語学力が必要です。

どんな学位が取得できる？

取得可能な学位は国・地域によりますが、アメリカなどの場合は以下の学位が取得できます。

- 2年制大学・短期大学 → A.A., A.S. (Associate's degree)
- 4年制大学 (学部) → B.A., B.S. (Bachelor's degree)
- 大学院 (修士) → M.A., M.S. など (Master's degree)
- 大学院 (博士) → Ph.D. (Doctoral degree) または専門博士 (Professional degree, M.D. や J.D. など)

資格・条件

【卒業資格・学位など】

成績証明書・卒業証明書

短期大学・大学学部への留学の場合

- 日本の高校を卒業
- 日本の大学に1年以上在籍 (例：ノルウェー)
- 現地の学力試験に合格
- 大学入学共通テストで一定の得点を取得 (例：ドイツ)
- 大学進学準備コース (ファウンデーションコース) を修了 (例：英国・オーストラリア)

大学院への留学の場合

- 修士課程入学の場合：学士号取得
- 博士課程入学の場合：(専攻分野での) 修士号取得
- 専攻分野によっては、職歴が求められることもある

【語学力】

- 各種語学試験、または現地の学校が実施する試験への合格



学校によっては、在籍校と留学先校の両方から学位を取得できる「ダブルディグリー」や「デュアルディグリー」「ジョイントディグリー」制度もあるよ！

【資金】

- 学費と現地での生活費をまかなう資金があることを証明する書類 (例：預金残高証明書・奨学金受給証明書など)
- ※ 留学生用の学費が現地の学生用とは別に設定されている国・地域があるため、必ず留学生用の学費を確認すること
- ※ 留学生のアルバイトは法律で制限または禁止している国・地域があるので、事前に十分な資金を用意しておくこと

【注意事項】

留学生が応募できる奨学金や授業料免除制度を持つ大学があり、出願と同時に入学後に応募できる。

※ 日本で申請する奨学金は、留学開始時期の1年以上前に応募を締め切るところもあるので注意！

出願・選考方法

出願書類のみで入学の可否を決定する国・地域が多く、現地の学生とは別の留学生向けの選考方法を設けている場合があります。

編入制度

日本→海外

日本の大学などに在籍中、もしくは卒業、退学後、海外の大学などへ編入することができます。編入先の指定する言語に翻訳した日本の学校の講義概要と成績証明書を提出し、それを基に編入先大学が互換可能な単位数を判断します。

海外→海外

国・地域によっては大学への編入が一般的に行われているところがあります。例えば、アメリカやカナダの短期大学やオーストラリアやニュージーランドの専門学校では、修了後に自国の4年制大学に編入するためのコースがあります。進学を希望する大学と単位互換協定を結んでいる短期大学や専門学校を選ぶのも一案でしょう。ただし、それぞれの学校が認定・登録されているかなど、教育制度について事前に確認しましょう。各学校の認定・登録団体が異なると、単位の互換性がなくせっかく取得した単位が編入先で認められないことがあるので注意しましょう。



学位取得を目的としない留学

日本の大学などに在籍中でも、社会人になってからでも、留学に行くことが可能です。留学のコースも様々で、数日間の語学コースから1年ほどの専門科目の単位を取得できるコース、修了証が授与されるコースまであります。留学時期・留学の目的によってコースを決めましょう。

日本の大学などに在籍中の留学

日本の大学などに在籍中に留学する方法は大きく分けて「協定留学」「認定留学」「休学留学」の3種類があります。在籍校にどのような制度があるのかを調べ、自分の目的に合った留学を選択しましょう。

協定留学

日本の在籍大学の海外協定校への留学。「交換留学」「派遣留学」という場合もあります。

認定留学

自分で留学先の大学を選んで出願し、留学中の取得単位を日本の大学の卒業単位にすることができる留学。

休学留学

日本の大学に籍を置いたまま、休学して海外に留学すること。自分の目的・希望に合う留学先やプログラムを選ぶことができる。取得単位が日本の大学の卒業単位として認められるかどうかは、在籍大学に確認しましょう。

	協定留学	認定留学	休学留学
留 学 先	在籍校と交流協定を結んでいる大学	自由選択（在籍校からの認定が必要）	自由選択
期 間	1 週間から 1 年	1 学期から 1 年	自由（在籍校の認める休学範囲内）
単位の互換	あり	あり	なし
授 業 料	在籍校か留学先のどちらかの学費	留学先の学費 + 在籍校両方の学費※	留学先（+ 在籍校の休学在籍料）
修 業 年 限	算入あり	算入あり	算入なし

※認定留学では、両方の大学に学費を納めることになっているけど、日本の在籍大学が授業料を免除してくれる場合もあるから事前に確認してね。



社会人の留学

社会人でも大学などのプログラムに参加できることがあります。また、社会人向けのプログラムを開設している学校もあります。

学位取得を目的としない参加可能なプログラム・コース例

大 学 の 授 業	● 学校が認めれば、正規生と同じ授業を受講できる ● 単位の取得が認められることがある ※正規生・交換留学生在が優先的に授業登録できることが多い
留 学 生 対 象 プ ロ グ ラ ム	● 留学先の国・地域の文化講座 ● 集中語学コース ● サマースクール
特定分野の知識やスキルの習得を目的としたプログラム	● プログラミング、ビジネス、教員養成など分野はさまざま ● 課程修了後、修了証などが授与される

資格・条件

プログラムやコースにより資格・条件は異なります。留学先校が提示する資格・条件を満たしていれば、学生でも社会人でも留学できます。年齢制限や就業経験などが求められる場合もあるので、自分が参加したいプログラムの資格を確認してから手続きをするようにしてください。

語学学校への留学

大きく分けて、大学などに付属する語学学校と公私立・非営利団体などの語学学校の2種類があります。大学などに付属する語学学校は大学などが運営を行っていることが一般的ですが、なかには提携している私立の語学学校がコースを提供していることもあるので、留学目的に合わせて選びましょう。期間は、数日から数か月まで受講者のニーズに合わせたコースが選べ、学校によっては随時入学可能です。

コース例

- 入門から上級まである総合コース
- 日常生活に必要なコミュニケーション力を身につけるコース
- 語学能力試験対策コース
- 大学などへ進学するためのアカデミックスキルを身につけるコース
- ビジネスや医学といった専門分野に特化したコース
- スポーツ、文化体験、観光といったアクティビティとセットのコース
- サマーコース

資格・条件

卒業資格・成績・語学力などの入学条件がないことが多いですが、コースによっては対象者レベルなどが設定されていることもあります。

資金面では、学費と現地での生活費をまかなう資金があることを証明する預金残高証明書などを提出するか、事前に手付金や学費を支払う必要があります。語学留学向けの奨学金は少なく、アルバイトは法律で制限または禁止している国・地域が多いので、事前に十分な資金を用意しておきましょう。

出願・選考方法

入学選考は出願書類によって行われますが、学校が求める応募資格を満たしていれば、クラスの定員内である限りは受け入れられます。



高校への留学

高校在籍中に留学することもできます。留学先国・地域によっては、公立の高校に留学できる年数が制限されている場合があります。卒業資格を取りたい場合は、学校を選ぶ際に確認しましょう。

交換留学

教育交流団体が実施している交換留学プログラムに参加する留学です。異文化交流・異文化体験を目的として一般家庭（主としてボランティア）にホームステイしながら現地の高校に1学年間通います。留学終了後は、日本の在籍校に復学するか、日本の在籍校を卒業します。

現地の高校卒業を目的とする留学

自分で留学計画を立て、自分の目的に合った留学先（国・地域、学校、滞在先）を探し、入学・入国手続きを行って海外の高校へ留学します。卒業を目的するため、現地の生徒と同じ授業についていけるだけの語学力と学力が必要です。

高校卒業後の進路も念頭に置き、留学先の高校の認定・登録状況（P.17）もよく調べておきましょう。

そのほか、学校間の提携に基づいた姉妹校への交換留学、地方自治体やその管轄の国際交流協会が主催する海外の姉妹都市の学校への留学、外国政府から招かれる留学などがあります。

資格・条件

交換留学実施団体や留学先校が求める語学力が必要です。各種語学試験や学校独自の語学試験で判断されるのが一般的です。

高校生向けの奨学金

「官民協働海外留学支援制度
～トビタテ！留学JAPAN 新・日本代表プログラム～高校生等対象」（給付型）

多様な分野においてリーダーシップを発揮し、世界で活躍しようとするまたは日本から世界に貢献する意欲のある高校生等が対象の奨学金です。トビタテ！留学JAPAN では、語学研修のみの留学プログラムだけでなく、「実践的な学び」についても支援の対象とし、「マイ好奇心探求コース」、「社会課題探求コース」、「STEAM探求コース」、「スポーツ・芸術探究コース」の4つの募集コースを設定しています。

